

## 海外での社会貢献活動



ジョンソン・エンド・ジョンソングループでは、「いのちの救済と生活の改善」「ヘルスケアにおけるスキルとキャパシティの向上」「疾病の予防」を3本の柱に、世界各地で社会の課題の解決をめざした社会貢献活動を行っています。

### ○ いのちの救済と生活の改善

#### Saving & Improving Lives

##### 【インド】教育をつうじた児童労働の解決

Prathamはインドで慣例的に行われる児童労働を削減し、最終的には撲滅することをめざして活動している非営利団体です。

ムンバイだけでも30,000人の子どもたちがPrathamからの支援を受けてきました。2005年以来、15,000人以上の子どもたちが街の労働から開放されましたが、未だ4,000人が支援を受けられず労働に就いていると推測されています。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、Prathamが地域の保健センターをつうじて行っている元児童労働者であった子どもたちへの教育をサポートしています。センターでは子どもたちが労働から開放され子どもらしい生活を取り戻せるように継続的な支援を行うとともに、学校や家族に戻るための準備を整えます。



### ○ ヘルスケアにおけるスキルとキャパシティの向上

#### Building Skills & Health Care Capacity

##### 【インドネシア】助産師の技術水準向上

インドネシアでは毎年20,000人の女性が、妊娠や出産で命を落としています。また、165,000人の乳児が出生前、出生中、または出生直後に亡くなっています。助産師たちは国中のあらゆる地域で、ほぼ半数の出産に立ち会っていることから、産科医療の改善のために非常に重要な役割を担います。ジョンソン・エンド・ジョンソンでは、インドネシア助産師協会 (IBI) が運営する助産師の技術向上トレーニング Bidan Delima プログラムを、2003年の発足当初から支援してきました。2007年は、全国約600人の助産師を対象に行われたトレーニングに対して必要な資金を提供しました。また、安全なお産のためのトレーニングビデオの改訂版が協会により作成され、国内76,000人の助産師のトレーニングに役立てられます。



### ○ 疾病の予防とスティグマの軽減

#### Preventing Diseases & Reducing Stigma

##### 【中国】エイズ孤児への支援

安徽省阜陽 (Fuyang, An Hui Province) では、売血をつうじて親がHIVに感染し、その結果孤児になった子どもが少なくありません。子どもたちは養父母の家などで生活していますが、エイズで親を亡くしたという社会からの偏見 (stigma) によってところに深い傷を受けています。

2003年12月に設立されたエイズ貧困児童支援協会 (Fuyang AIDS Orphan Salvation Association) は、HIV/AIDSに関連する社会の偏見や差別の解消をめざして活動しているNGOです。ジョンソン・エンド・ジョンソンからのサポートを受けて、中国東部安徽省においてHIV/AIDSの影響を受けた子どもたち400人以上を援助しています。また、基本的な健康や教育のために必要とされる費用や、物資、職業訓練、そしてところのケアの提供をつうじて、20の地域で200家族以上を支援しています。

